来を実現していただきたい

を引き継ぎ、年ごとに、理 年間、前任者が敷いた道筋

第449号

げてきた。平和的共存と相

全世界の人々を前に声を上 いつも新しい年の初めに、 だった。以来、二十五年間、

(1)

メッセージで世界平和の確立のために、平和教皇は今年の「世界平和の日(一月一日)」 改革などの必要性を指摘した。十二月十六日 付け発表の同メッセージ要約を紹介する。 への教育を訴え、国際法の順守や国際機関の

理由すら危うくしているテ の皆さん、また自らが戦う への教育に努力する教育者 をとおして平和協調の道を してすべての人々に語りた 口を企てるあなた方に、そ 整える法律家、理解と対話 る国家指導者、協約や条約 平和促進の義務を帯び う呼びかけたい。人類は、 の日」を祝ってくださるよ と願ってのことだった。 があるからだ。 調への道を再発見する必要 いま、かつてないほどに協 今年もまた「世界平和

> 悲劇を前にして、 かという諦めに傾いている

単純な原理、「平和は可能 自由の上にこそ築かれなけ だ」を教えてきたし、今日 ればならない。平和を愛す つの柱、真理と正義、愛と 教皇世ヨハネ二三世が回勅 も教えている。その平和は、 「地上の平和」で示した四 教会はいつも、非常に

考慮する普遍的原理の形成

争の惨害から将来の世代を する悲哀を人類に与えた戦 のうちに二度まで言語に絶

れる体系は「われらの一生

救う」(前文)ためだった。

家族の一致と共通の召命を させ、国内法に先立ち人類 誕生は更にこの動きを加速

につなげてきた。こうした

動きの中心にあるのは「合

何をもたらすかについて第 だ。この原理を侵すことが 意は拘束する」という原則

ロ現象等はこれを裏切る。 での暴力的紛争の多発、テ

平和は実現不可能ではない (大斎・小斎) 人々が、

年間第四主日 年間第五主日 年間第五主日 世界病者の日 世界病者の日 世界病者の日 世界病者の日 世界病者の日 世界病者の日 世界病者の日 世界病者の日 四旬節第一主日

## 性と信仰に照らして、 厳しい要求を突きつけても を懸念する人々には非常に あり、同時に、人類の将来 のある人には理解に容易で 編である。それは心の準備 の総合であり、また平和と う善意の人々に語りかけて ある共存について省みるよ いう基本的な主題への入門 たのは平和についての教説 その結果、でき上がっ

## 編集発行人 竹山 昭 1部60円年間〒共1100円

## 振込口座 02030-2-8359

## 〒892-0841 鹿児島市照国町13-42 カトリック鹿児島司教区

## 持に適 「世界平和の日」 った

平和への知識

るため、平和の教育を」に

最初の「世界平和の日」メ

イニシャティブ 一九七九年に私

ッセージで「平和を促進す

中心を置いた。この日を始

た教皇パウロ六世の望

言者的な警告の響きを帯び 識」の様々な箇条を示した。 の悲劇を前にして、時に預 流血をもたらしている戦争 全世界で、特に中東地域で その一つひとつは、未だに 着実に、的確な「平和の知 は、 にあてた十一のメッセージ ゆっくりとではあるが パウロ六世が世界

日に、将来の歴史の発展を

歩みの時を刻む暦の最初の み、「今後、毎年、人間の

(昭和43年10月25日第三種郵便物認可)

り返されることを心から望 して、このような催しが繰 にとの希望と約束の表れと 安定のある平和であるよう 動かすものが、正しく真に

んでおります」に従うため

3 平和への入門 私は、この二十五

> 和への教育を施すことがキ 識のうちに根付かせるため 想を、それが要求する事柄 リスト教の特性に属すると は自分自身と他の人々に平 とともに、各人や民族の意 いうことを感じている。 に働くことだ。キリスト者 今や、平和的共存の理

平和の教育

め平和の教育を」という訴 述べた「平和を達成するた えは、今日いっそうの緊急 も人類を苦しめ続けている 性を増している。あまりに 私が一九七九年に

> がある。新たな世代にこう る人々には、だから、義務 とおして、人類のよりよい 未来を準備するという義務 した理想を教育することを

合法性の教育

導くことが肝要だ。法は平 和を支持するからだ。 当局の決意を尊重するよう じ、合法的に民を代表する 人や民族が国際秩序を重ん 5 平和の教育には各

整備してきた。近代国家の 徐々に武力行使に替わる合 意による解決のために法を 文明の曙から、人類は

**権限と責任を負う。** 

集団的安全保障」だけだ。

禁止にある。例外は「国連 委ねることになった。その る役割を、国際連合機関に 憲章」七章が認めた二つ、 中心的な役割は武力行使の 善を維持し保障しようとす を監視し、人類の基本的な ら、世界平和と国際的治安 正当防衛の自然な権利 法の順守 人類はこの経験か

的な経験をした。 一次大戦で人類はその悲劇

は築かれてきた。今や、こ

織的にも平和の建設の基礎

効果的に所期の目的に添う 加わっている。国連はより れに非政府組織や人権運動 される必要がある。 際秩序の形成に向けて改革 に関る多くの人々の運動が

司祭の消息

国連安保理が平和維持への 国連憲章によって築か 田中整形外科で静養中。 疱疹が再発。現在は紫原の けたが、その入院中に帯状 ポリープの内視鏡手術を受 小平卓保神父 (紫原主任) 昨年十二月半ばに大腸 体

末から、長崎市内のご兄弟

の家で静養中。昨年末の手

約

教会は「平

特にパレスチナと中東で続

必要だと呼びかけてきた。

の解決のためにはゆるしが

だから人々の間の問題

力が戻れば再び大腸の手術 ことだ。国際法はより強い

義の論理を越え、赦しの論

く危機的状況では単純な正

理にも開かれた決断がない

かぎり、解決はを見出すこ

とはない。

のために転院して手術予 中の主日のミサは教区本部 定。当分かかるので、留守

下村徹神父(病気静養) 既報のように昨年八月 場復帰したいとリハビリや 歩行運動に励んでいるとの

る主体が加わったことで困 重ねてはいるが、テロ組織 という国家とは全く 代世界の紛争解決に努力を テロの破壊的な傷 今日も国際法は現 ことな

平和の法律だったが、正義

長い間国際法は戦争と

とを避けなければならな

ものの論理がまかり通るこ

と連帯に裏打ちされて、た

だ平和のための法律となる

がある。また、民主国家の 尊重する精神を育てる必要 から除去すること、 レベルでも進める必要があ きないことを理解している 政府であれば、テロリスト はいかなる状況でも人命を る。一方では捨て鉢な暴力 口との戦いは政治と教育の 後にある動機の勇気ある正 抑圧や制裁に訴えるだけで いう原則の放棄を正当化で 確な分析が要る。同時にテ は不十分だ。テロ攻撃の背 難を極めている。 への武力行使が法の支配と !駆り立てる不正義を根底 テロとの戦いでは単に 教会の貢献 他方で 当たり、もう一度繰り返し 道の終りには到れない。正 たい。真の平和のためには その教説を通して全人類の 愛という深い力に開かれて 義だけでは不十分であり、 ければならない。法は平和 正義が愛のうちに成就しな 与える必要がある。 教会は ことさえある。 いない正義は自らを裏切る によって補完されなければ へと続く最初の道だが、愛 ための発言を惜しまない。 せるよう強調してきた。特 共通善へと国際法を向かわ ためには道義が法に刺激を よう求められている。その に現代では歴代教皇はその

愛の文明

この考察を結ぶに

での分裂、冷戦構造、地域

しかし、その後の国際社会

貢献をしてきたのは否めな

い。だから、文化的にも組

自由、開発の必要に多大な

関が、限界をもちながらも、

新たな国際秩序

とはいえ、

国連機

人間の尊厳の尊重、人々の

序の尊重が不可欠だという 設には倫理的、及び法的秩 のメッセージを告げなが の人は神の子と呼ばれる」 が教えることは、平和の建 ら、平和に貢献する。歴史 とのみ言葉にならって救い 現する人は幸いである。そ 和を実

紙によれば、内科と整形外 科で糖尿と血圧、筋肉の痛 に、一年先には鹿児島で現 み等の治療にあたるととも

九旦)

「結婚問題の司牧

的課題」と「信仰教育への

取り組み」がテーマ。それ

ぞれ専門の小グループによ

る取組決める。

題検討(一月二十八~二十

教区司祭大会で実践的課

もにカテドラルで。 プトール会石田望神父とと

奄美の宣教師ジェローム

(三月二十一日)

レデン

より耐震建築の新校舎祝別

末吉卓也神父司祭叙階式

(三月十日)

糸永司教に

中心鹿児島教区のニュースを四十項目拾い上げ、た昨年は、どんな一年だったでしょう。教区報を その一年を振り返ってみました。皆さんも回想し てみてはいかがでしょう。 「聖性への信徒の召命」を教区目標にスタートし

の召命」
〇三年頭教書で、 願して北大島の諸教会を巡 仰生活指針』を配布 て小冊子『信徒のための信 目標の提示。その一環とし 小教区の見直しに続く司牧 (一月十三日) 教区目標「聖性への信徒 奄美修女連の島内巡礼 召命を祈 9

気療養の下村神父に代わっ トール会司祭(四月) も参加して長崎、島原へ。 泉神父の引率、徳之島から (三月二十六~二十八日) 教区司祭地区にレデンプ 恒例の中高生春の巡礼

12 部環境文化学科に通学す 崎総合科学大学人間環境学 コレジオへ進学 (四月)長教区神学生蘓畑君、長崎 て橋口師が吉野教会主任兼

21

修道院閉鎖(四月) 面撤退となる。 で同修道女会は教区から全 ベタニア修道女会喜界島 これ

十周年記念ミサ(一月三十

司祭大会最終日、ブ

田原章神父の司祭叙階五

ラジルのご兄弟たちを迎

え、カテドラルで。

て閉鎖(二月七日)

最後

高松教区司祭ディーノ神

南九州小神学院惜しまれ

の運営委員会と感謝の夕

トリック神学院へ。 べ。以後、小神生は長崎カ

大口明光学園新校舎落成

父 (ネオカテクメナート) 任。在鹿フィリピン人信者 教館着、五月二十三日、種 の司牧にも協力する方針 入しない。四月二十八日司 子島教会主任司祭として赴 ただし、新求道期運動は導 め、三年契約で来援要請。 田辺師療養のた

<KABAYAN SEKSIYON>

"BAGONG TAON..BAGONG PAG-ASA'

"Manigong Bagong Taon" sa inyong lahat mga KABABAYAN ko.

Unang-una sa lahat ay magpasalamat tayo sa Diyos sa pagsalubong natin sa Bagong Taon 2004.Dahil itong Bagong Taon,para sa lahat ng ating mga Kababayan na nawawalan ng pag-asa, ay muling ibinibigay ang Bagong Pag-asa.Siguro ang iba sa atin ay nag-iisip, ano ba ang mabuting gawin sa Bagong Taon na ito? Siguro iba-iba ang naiisip natin kung ano ang mabuting gawin sa Bagong Taon na ito.Sa mga may asawa dito sa Japan, sa inyong mga anak, sa inyong mga asawang lalaki, at sa inyong mga sarili.Subalit paano natin magagawa ang mabubuting gawin?

Tayong mga naniniwala kay Hesukristo bilang Anak ng Diyos mas higit natin na pala kasin ang ating pananampalataya sa Kanya. Dahil sa Diyos nagmumula ang mga mabubuting gawain.Kung ang Diyos ay ang ating gabay sa ating buhay,siya mismo ang magbibigay sa ating ng liwanag kung ano ang gaga win natin.Siya rin ang magbibigay sa ating mga Kababayan, huwag tayong mawalan ng pag-asa.Manalig tayo sa Kanya lalung-lalo sa Kanyang Bugtong na Anak na si Hesukristo na ating Tagapagligtas.Hindi lang mga materyal na bagay ang bigyan natin ng pansin ang ispirituwal na bagay na bahagi ng ating pagkatao. Iyan ang magbibigay sa atin ng tunay na kaligayahan ,kapaya paan at pag-asa.Maging matatag tayo sa ating pananampalataya.

Patnubayan nawa kayo ng Panginoon.

Fr. Dino A. Orolfo

ついてなど、コンベントゥ リオの年のカテケージスに 「ロザリオの年」の教区指

祭)逝去 三月十九日逝去、 神父(コンベンツアル会司

一十四日教区葬、

教会の戦後史に幕

16

恒例の北薩カトリック大

会 (六月一日)

信式を廃止して小教区訪問 と堅信式に変更 ザビエル教会堅信式(六

司祭叙階式 (三月二十九日)

コンベンツアル会助祭・

新聖堂で内野洋平神父と山

糸永司教司式、マリア教会

18

第四回班長研修会(六月

永山師作成 『班

念ミサ (六月二十九日) 教迎え、堅信式と初聖体で 制度のしおり』による研修 玉里教会創立三十周年記 司

19

了 より園舎配置替えと新築完 (七月十日) 愛の聖母園新園舎祝別 都市計画に

病

20

の解説をテキストに司教講 目標『小教区とわたしたち』 (七月六日) 奄美大島の班長研修会 昨年の教区

沖永良部教会に六人の宣

28

信仰養成のための「夏期

ムイベルガ師、レデンプト ル会来日五十周年記念講

今年から合同堅

27 26

趣向(八月十五日) の三部構成。①聖ザビエル 母被昇天祭を取り込んで次 多くの参加を促すため、聖 ザビエル上陸記念祭に新 ③平和への決意と派

出水教会。

指導のもとに、末吉、 員会発足 (七月) **入松の三師で構成** 教区司祭中野神父マリア

31

主任司祭道向神父を解任し 日付け) 病気療養中の

修黙想(八月二~三日) サール高校会議室で大松師 の講話を聞いて話し合い カトリック教師の会が研

35 の推進・十月及び十一月コ 基礎共同体としての班制度 きぼうの電話開局十六年 ンベントゥスで司教講話 信徒の日常活動を目指す

修会 (七月二十五日) 恒例 の研修会が「霧島ハイツ 教え』の学習を決めるなど 任命。『カトリック教会の の堅信と六人の宣教奉仕者 **六年ぶりの司教訪問、五人** カトリック幼稚園教師研

要理教育カリキュラム委 泉

教会主任司祭代行に(八月

の普及のため、各小教区で

カリキュラム委員会作成の 「小学生のカリキュラム」 十月十九日) 第二回カテキスタ研修会 末吉師ら

山内実師迎えカテドラル

教奉仕者誕生 (七月八日 第中講座」 第中講座」 で『カトリック教会の教え』 第一部のⅡを学ぶ

ヤロシュの三師の日本上陸 日五十周年(九月十日) 一陣のマイエル、ミタマヤ、 レデンプトール修道会来

ゥスの司教講話で強調 成人信者の要理学習の推 九月の司祭コンベント

エル教会から徒歩巡礼、 山公園ザビエル碑前で司教 ミサ(九月二十八日)ザビ 青年たちの伊集院巡礼と 城

ロザリオの年の記念行事 ロザリオの祈り 旦

巡礼と堅信式(十一月三十 内巡礼に参加し、下久志教

司教、三年ぶりに島

(八月十八日~ 竹山師の指導 (十一月十六日)

担当の溝部司教の講演

**4** 日 2 日

丞

教区本部会議・会議室・10時

女性信徒の会読書会・教区本部会議室・10時

女性信徒の会黙想会・玉里教会・10時

月

火

列福運動推進のため、列福

1 日

<del>目</del>

会 13

時30分

レジオマリエ鹿コミチウム黙想会・玉里教

催

L

(2月)

紀にわたる田辺師の教区奉 (十一月十七日付け) 半世

工事落成式(十一月二十四 新カテドラル建設第二期 教区本部棟、司祭居

住棟及び新書院棟の祝別奉 設事業が終了、教区の歩み 献。これで新カテドラル建

祈祷の使徒会

教·大 般·聖

地での平和的共存

洋州の福音宣教と司祭及び修道者の

【十字架の使徒会】

教区民の信仰の高まり

日本の教会・心病める人々とともに

徳之島・母間教会の島内

会で六人に堅信 初めての教区主催「召命

第十二

回

他

宗教対話の会

テーマ

神道その一

講場 日

ムイベルガ神父(谷山教会)

師 所 時

二月十五日(日)十四時から

エル教会一階ホール

養成講座終了し認定式、 川内殉教祭の意義強調 九

田辺神父の現役引退許可

祈

0

0

意

向

に弾み期待

祈願ミサ」 (十二月七日) 長崎カトリック神学院院長

会員募集

思川短 歌会・俳句会

あなたの祈り の短歌、俳句を毎月三首、三句以内

を書いて会宛にお送りください。 〒八九〇—〇〇字 田平新太郎方 忠川短歌会 思川俳句会 (肛〇九九—二五五—四二六一) 〔四 鴨池新町三─五─四○二

## カバイヤン セクション(概要)

**霊的なことを求めましょう。神があなた方を祝福さ** 今年は何に希望を持っていますか?特に結婚して 新しい年を迎え心から神に感謝しましょう。

れますように。

tel/fax 09972-2-0423 keitai: 090-2085-1094

の良さに導いています。ですから失望しないで、イ すか?神さまは良さの源ですから、キリストを信頼 しましょう。私たちの指導者神さまは、私たちをそ エズスを信じ、物質的なことばかりでなく、もっと いる仲間たち、家族に対してどんなよいことをしま 教区百周年記念に向けて

記念事業実行委を組織した大笠利教会

第449号

引き継いでいくかと、司牧評議会

た尊い遺産を、いかにして後世に

と農園やそれぞれの専門の事業主

の方々の献身的な協力により

定通りの作業ができました。

起こしもありましたので、ショベ

百周年記念式典並びに祝賀会

ルカーやクレーン車などの機動力

イチョウの大木で、山からの掘り チ(二株)、ヒイラギナンテン、

の意見を吸い上げながら四回の実

たちがあらゆる苦難を乗り切り

同じ信仰を持ち、今は亡き先人

カトリックの信仰を守り続けてき

とになりました。

茂神父さまのご指導のもと、山田

委員会が組織されました。浜田盛 と昨年四月十三日に記念事業実行 末長く語り継ぐため何かをしよう

ど悪条件でしたが、記念樹の植樹、

ができました。 とときを過ごし、

絆を深めること

末を控え町の行事や地域の行事な

昨年十一月三十日 (日) は、年

入れ、花の植栽や清掃など総動員 記念碑の基礎工事、芝や垣根の手

による大作業を実施しました。

植樹は、コクタン、クロカネモ

賢三氏を実行委員長として長田恵

子信徒会長と相提携し取り組むこ

えます。この大きな節目に当たり

十六年)に小教区発足百周年を迎

大笠利教会は二〇〇四年(平成

割り振られ、巡回教会の信徒も共

に活動を展開しています。

記念誌編集、調査係、年号表係に

りが主役として、事業係、財務係、

**行委員会を重ねて参りました。** 

顧問、熟年役員、会計、青壮年

婦人部のみんなが、一人ひと

(昭和43年10月25日第三種郵便物認可)

(3)

## 各地から喜びの報告 昨年クリスマス時期の洗礼式

現という。また阿久根教会からはミッションスクールで蒔かれた種が、三 十年以上たって芽を出したという実りが報告された。 洗礼があったと報告してくれたのは鴨池教会。カテキスタの努力による実 時期に教区全体で五十七人の洗礼があった。その中で久しぶりに大人数の 主任司祭からの報告(一月二十一日現在)によると、昨年のクリスマス

書にふれる集い」の受講者、 会附属の聖母幼稚園の「聖 の数の洗礼があったのは久 の洗礼者数では、教区のど ンバーなど様々。また家族 大学生、教会が会場を提供 鴨池教会で一度にこれだけ の小教区よりも多い。また 数は昨年のクリスマス時期 洗礼の恵みに浴した。この しているAAグループのメ しぶり。受洗したのは同教 鴨池教会では十五人が

共同体の祈りに支えられ というご主人も、家族と の中で一人だけが未洗者 準備にカテキスタの桃薗 なのはこの方々の洗礼の で寂しい思いをしていた えて要理を学び、 同教会の受洗で特徴的 一郎さんが活躍したこ 受洗ま

> を訪ねてくる人の中には彼 神父は新しいメンバーに高 ど」と喜び一杯の様子。泉 でいるという。 齢化の進む教会の新しい風 を司祭だと思っているほ になってくれることを望ん

園の卒業生で、現在、教会 歳になった女性が洗礼を受 けた。彼女は鹿児島純心学 ム」でボランティアをして に隣接する「聖園老人ホー 阿久根教会では五十一

桃薗さんの努力でこれだ の実りがあった。教会

主任司祭の泉神父は、

ジ。そして信仰宣言を学ぶ 間の聖書の学習にチャレン いと十五か月の間、週一時 いる家庭の主婦。純心で学 うちに、受洗に踏み切った。 んだものを疎かにしたくな

芽吹いたことになる。洗礼 届けたいと未洗者のご主人 ミッションスクールで蒔か 式には、彼女の晴れ姿を見 れた種が、長い年月を経て も参列し感動的な洗礼式に

なったという。

水、志布志、ザビエル、知このほかにも姶良、出 名瀬、聖心、大熊、和泊、 母間からも洗礼の喜びが伝

は「馬小屋を巡りながら子

(火) からスタートさせた。 え」の学習会を一月十三日

教区召命担当の京

泉神父

じたことを教会学校などで

げた鴨池では、召されてい

る者には信仰の見直しは欠

として」を小教区目標に掲

昨年「召されている者

いかしていけるようなサポ

トができればと思ってい

を感じているよう。 どもたちはそれぞれに何か

その感

小屋」の投票で一位に選ば

純心、そしてザビエル教会

れたのは鴨池教会、

続いて

めに―」の実現のために、

に信仰を生きてひろめるた

早速動き出したのは鴨池教

会。「カトリック教会の教

## 子どもたちが馬小屋巡 教区召命担当主催で り



内教会の馬小屋巡りがあっ 子どもたちによる鹿児島市 十二月二十三日(火)

> お世話を受けて実施でき の忙しい時期に多くの方の 切な日になったようだ。こ る。子どもたちにとって大

た。感謝したい」と感想を

らうために、学習会を頻繁 に一人でも多く参加しても

に開くという工夫をしてい

たえることにしたという。

同教会ではこの学習会

での呼びかけにいち早くこ かせないと司教の年頭教書

りつつある行事の一つ。今 年は二十三人の小中学生が なって企画し、昨年は都合 の教会の馬小屋にラサ 参加した。今年はこれまで で中止になったが恒例とな 待降節時期のこの行事 純心の両学園を加えた 教区召命担当が中心と

小教区の関係者も総動員して八

終わったことを喜び、和やかなひ の手作りのご馳走で、作業が無事 活躍には頭が下がる思いでした。 賛助会員の皆さまの惜しみないご 十八人、賛助会員(教会にかかわ のある方や理解のある方など) 昼食から晩の懇親会は、女性部 五人の協力による作業でした。

うにと願っています。 教会が広く地域民の心の拠り所と して理解が深まり広がっていくよ 目が、また信徒の共同体としての 百周年という大きな意義深い節

は、二〇〇四年(平成十六年)三 ています。 一十一日午後二時からを予定し 【写真は植樹作業】 通信員/日高潤郎)

> 屋の前で子どもたちに詳し い説明するなどサービスも 他教会のものを見学した。 **子どもたちは、興味深げに** 馬小屋を見る機会が少ない

前回好評だった子ども

召命祈願巡礼 奄美修女連

盟が巡ったのは奄美大島南 道女の一行だった。 区長を団長に三十六人の修 部の教会。大野和夫大島地 の巡礼を行った。今回同連 **運盟が、今年も一月十二日** を巡礼した奄美地区修道女 ーマに奄美大島北部の教会 〔月〕 「世界平和と召命祈願」 年「召命祈願」をテ

員と島唄を歌い踊りを踊る 営母体となっている老人ホ でベネディクション、その 発した一行は、古田町教会 などしてお年寄りを励まし 兀の信者たちと今回のテー を学んだほか、出迎えた地 後西仲勝、山間、古仁屋、 マに心を合わせて祈った。 と触れ合おうと修道会が経 四阿室と巡り各教会の歴史 名瀬市の聖心教会を出 ム「めぐみの園」「奄美 また今回は小さな人々

あり、 準備になったようだ。 八か所。あまり他の教会の **訪問先では主任司祭が馬小** 降誕祭を迎えるいい

たちによる「印象に残る馬

る。

開かれるのは週に四日

もその方々が信仰を守り続 りの多い各教会だった。で た」と感想があった。(報 分の召命の尊さを再確認し て宣教への使命、そして自 ださった。この巡礼を通し け、私たちをもてなしてく た。参加者からは /奄美修女連) 「お年寄

ミサ後にも学習会という念

の入れようである。

教会に来ることができない

人のために、第三日曜日の

る。また週日はどうしても

回に約二時間を費やす

水・十三時、木・十時)、

(月・十三時、火・十時、

信仰の見直し開始 鴨池教 会

の教えを学び直そう 今年の教区目標 |教会 ーとも

美味しくできるかな

-愛の聖母園餅つき― 12月20日(土)壮年、婦人の25人 が愛の聖母園の子どもたちのために 餅つきのお手伝い。楽しいひととき となった。

いる。 の注文も四十冊と増えてき ものとして欲しいと願って た。教会ではこのチャンス て「カトリック教会の教え」 教会の教えを心から自分の 学習会の開始が決まっ 言葉だけで覚えた

りが増えてきました。 区のミサや行事へのかかわ 小教区への意識が少しずつ

願わくは私が私であることの

森

博伸

去り行きて君はいずこで今いかに

かたちで神を愛を語らん

(評) 神の愛の尊さを自身に問いかけ

わが代父たる友でありしに

る深い祈りの歌である。

出てきました。小教区で

青年たちの中から所属する 様々な分かち合いを通して

しかし一昨年頃から

鰋

飜

(思川短歌会作品)

文

様々な役割を担うようにな

った青年たちもいて、小教

ですが、少ずつ活動を続け

て、教会の中に青年たちの

主に誓う二人の門出告げる鐘

朝の街に清しくひびく

日々のお顔の愛しく映ゆる

だ始まったばかりの集まり

教会の門に佇むマリア像

鹿児島

本城

愛

小教区青年会発足です。ま

そんな中でのザビエル

ていってくれることに期待

# 鹿児島教区の青年たちの今

## ザビエ ル 小 教 X に 青年会

発足

動はどこがしていたの?と らせでした。 ち上げました!」という知 ビエル小教区で青年会を立 飛び込んできました。「ザ 年司牧担当司祭に青年の一 人からうれしいニュースが 今までの青年たちの活 昨年の秋、教区の青少 したいです。

ちに呼びかけて司教館の研 出発点として、ザビエルサ 修の家を拠点に集まり、 所を見出せずにいて、小教 も活動してきた青年たち 発表された宣教決意表明を いなどの活動を続けてきま ャンプや黙想会や分かち合 教区を超えて同年代の人た はわずかでした。だから小 区ごとに活動できるところ は、小教区になかなか居場 マーキャンプを経てその後 九六年のザビエル祭で

えた今までの活動も変わ った青年たちが、助け合 グループもあります。 歌隊や聖書の勉強会など す。青年たち有志で、聖 がりを活かし、黙想会や らず続くでしょう。まだ 出来るように活動を続け い力づけあって、小教区 区や小教区を超えて集ま 独自の活動を始めている 会とつなげていきたいで して多くの青年たちを教 ミサなど多くの活動を通 キャンプや分かち合いや たちも多くいます。全国、 所を見つけられない青年 青年たち、小教区に居場 まだ教会から離れている (同体でも生きることが 7州地区など幅広いつな

思います。

いう疑問を持つ方もいると

年合同キャンプの反省会に ていきたいです。 載せます。 (久保直基) 福岡で行われた九州地区青 参加した青年たちの感想を 以下に、昨年十一月に

谷山 田下めぐみ

青年たちの小教区を超

動に驚かされました。青年 年たちが企画したり、ホー たが、福岡の青年たちの活 との大切さを感じました。 力のすごさと分かち合うこ と分かち合いをし、青年の をしたり、海外(フィリピ た。教会学校キャンプを青 な役目があると感じまし は子供と大人をつなぐ大切 ャンプについての会議でし ムレスの人たちへ炊き出し 今回は福岡での青年キ 初めて他県の青年たち パプアニューギニアな

離れて二年経ち、鹿児島 谷山教会 田下めぐみ かないままです。親元を したが、いまだ実感が湧 て大人の仲間入りをしま 今年私は成人式を迎え での生活もだいぶ慣れ、

ませんでしたが、青年た 地に来て、最初は教会に 思います。 らも過ごしていきたいと 新たに、また一日一日を ちと出会ったことでまた でした。誰も知らない土 いが一番私を変えるもの その中で青年会との出会 無事に過ごせたことを神 教会に行く事で気持ちを た。今は週一回ですけど いたため行くこともでき 行くことに抵抗を感じて に感謝しながら、これか 教会に行く事ができまし

ので鹿児島にももう少し学

たちはほとんどが社会人な

階式や降誕祭ミサで歌

マスを伝えた。

清々しい描写故に門出を祝うカ

朝夕の口語の祈り親しけり ネノ音が聴こえてくる。 呼び合ふ如く主を見つめゐて 鹿児島 田平新太郎

里の駅すすきなびかせ電車入る 渡る風まねくすすきが丘画く さきよみの妻の祈りの声清し 侚 (思川俳句会作品) こえ整へて共に祈らん 鹿児島 本城 愛

新雪や丘の聖堂を包む白 十字架のある街屋根の虹明り 龍門司真人

のためにもこの青年キャン 分にとってとてもいい勉強 で学び取るものがあり、 会になると思います。 プは情報交換できるいい機 この会に参加すること

ている感じがした。 生)が積極的でいい雰囲気 を味わった。 鹿児島の青年 アクティブで、活気に満ち 若い世代の人たち(学 福岡の青年たちは、 ザビエル 長 秀樹 今

作ったりするなど、青年だ

ど)に行き井戸やルルドを

からこそできることがある

んだと感じました。

また、その土地独自の

になりました。 自 なことだと思いました。そ

ら違和感がない。神様のな 島でもそんな雰囲気の青年 せる業なのだと思う。鹿児

年でよかったと思える瞬間 な感覚で、カトリックの青 めた。いつの間にか会話を なっている。これが不思議 である。精神面でのベース ることなく、すっと入り込 ときも、全然違和感を感じ が同じ方向を向いているか し始めいつの間にか仲間に 私たちを迎えてくれた

ち合いながらいい所をつか

れらを他県の人たちと分か やり方というのがあり、そ

み合っていくことは成長し

ていく上でも、とても大切

いうそんな意気込が感じら 会を盛り上げていくんだと

定、そしてキャンプの ったように思います。 にも多くの刺激と励ましを れだけにとどまらず個人的 を確認するというものでし 期反省と次期開催地 った九州青年キャンプの今 とりから芽の出る種をもら 受け、出会った青年 たが、分かち合うことはそ 集いの主旨は恒例とな

曜日に野宿者への炊き を行っているそうです。 ある小教区では毎 出し 週金 初

活動している。現在は 数人で聖歌隊を結成し 週二回練習で昨年の叙 青年聖歌隊活動中 鹿児島市内の青年十

個人病院のクリスマ 出演し、本当のクリ 声を披露した。 会でクリスマス会に そして青年会議所

スや

スも

ちで温かい青年会に育って たいのではなくて、神様の いくことを願っている。 下で、みんなと一つになり 会にしたい。自分一人でし 「人類皆兄弟」という気持

にふれてみたくて今回初め らいました。 てこの集いに参加させても を直接聞いてみてその 他県の青年たちの ザビエル 長まり 想い 活動 子

誰が会長で誰の責任という

のではなく、みんなで青年

いた。自分の意見をしっか

本当に若い世代が頑張って 必要かなと思った。福岡は もっと積極的に動くことが 生が増えて、その人たちが

り持って発言をしていた。

意向 の決 人ひ

という形で出会う青年一人 の出る種は私一人だけでは ひとりに渡していきたいと どうにも出来ず「声かけ」 **神様と相談中です。** 

## 揭示板

参加しましょう!

## 「日本カトリック女性団体連盟 創立30年記念長崎大会

テーマ:平和

わたしから始まる地球の平和-時:5月21日(金)~23日(日) 所:浦上教会と十四小教区

:総会、講演・アグネスチャン 『みんな地球に生きるひと』、記念ミサ 祝賀会、分散会

鹿児島からバスで向かいます。 てご参加ください。申込締切は3月15日 申込先は鹿児島カトリック女性信徒の会 まで。

## 第2回あっちこっちミサ 鹿児島 in

こぎだせ!地球人!― 2月29日(日)15時 時 ザビエル教会 所

外国の方と一緒にミサをささげます。 また、ドキュメンタリー映画「107+1 -天国はつくるもの~」の上映会も計画 しています。

奮ってご参加下さい。

主催/鹿児島教区青年会

思います。この小教区の活 けて一年、今では壮年も一 ていたそうですが活動を続 動はイベント的ではなく それぞれの役割を限定して うです。その中で「それぞ 緒になって頑張っているそ 思いをやる(思いやり)こ 続かなかったりする」とい 来なかったり、続くものも 瞬間の一つです。 て下さる神様を強く感じる とが出来る。それは隣にい うに同じ食卓を囲み互いの 下さったから初対面でも した。神様が集合をかけて 形として強く印象に残りま と改めて教えられたように くて体ですることなのだな ことは口ですることではな てしまうと出来るものも出 仕切りのようなものを作っ れに役割はあるのだけれど |仲間| と思え、当然のよ 「体を張る」信仰の一つの の頃は青年だけで活動し 意見を聞きました。 この集いでもらった芽 信仰を証しするという